

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2025年8・9・10月号

編集発行人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー

京都市左京区一乗寺竹ノ内町2-3

075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第639号

先日、友人の原義和監督の映画『豹変と沈黙―日記でたどる沖繩戦への道』(※)の試写会に足を運びました。日清戦争中に中国で書かれた日記を第一次資料としたドキュメンタリー映画となつています(二般公開は8月16日から)。

映画では軍や政治の要職についた人ではなく、「一兵卒」となった人々が、戦場に放り込まれ殺戮や暴虐に手を染めていく様が表現されます。戦場にも日常の日々があり、無残さと喜怒哀楽が共存している中で、人間性が壊されていく…。

この映画の特色は、父親(叔父)と子(甥)、戦争世代と戦後世代の葛藤や齟齬に光を当て、対話への道を探る試みになつてゐることです。子の「あなたが参加した戦争は侵略戦争ではないか」との問いに、「侵略戦争だと認めたら、自分の人生が何のために生きてきたのかわからなくなる」と答える父。しかしその足取りをたどりながら、子は「あなたをやった戦争責任は、俺が一緒にカラウ(背負う)」と告げます。

戦中の経験は家庭に戻っても、家族に話されることはほ

とんどなかった、と聞いていました(武勇伝や苦労話はあったとしても)。戦地での凄惨な経験が語られることが少なかった背景には、家族だからこそ、対話が難しいという側面があるのだと思います。わかってもらえないはず、わかってもらいたい、自分の存在を受け止めてほしいという願いは、生き続けていくにつかえ

棒のようなものですから。「会話」と「対話」は、親密度と目的において異なりませんが、価値観や生活習慣が近い親しい間柄での、日常的なおしゃべりのようなものです。一方、対話は、価値観や情報が異なる人との間で、意見をすり合わせたり、新たな理解を深めたりする、より深いコミュニケーションを指します(平田オリザ『対話のレッスン』より)。

サルの毛づくろいのような、互いを思いやりながら交わす会話も少なくなり、個人の狭い関心領域にのみ閉じこもっているような昨今。存在の肯定を感じられることも少ない中での言葉のやり取りは、「対話」を生み出すより、異質と感



財団評議員

増田 琴

「受け継ぐとつくり出す」

の排除へと向かっているようです。戦後80年という今年、「さまざまな価値の多様性を尊重しながら、正義、平和、いのちが尊ばれる社会の実現を目指す」対話の精神に基づくアカデミー運動とは逆の方向へと向かっている感が否めません。そうした国内外の情勢の中で、対話の場を創出し続けることの意味を考えます。

私自身はキリスト教会の中で育ち、戦争責任、戦後責任ということと真摯に向き合う方々との出会いの中で、足りないながらも、学びと意識を変革する機会が与えられてきました。それが戦前からキリスト教会の牧師であった祖母や、日本の中で少数者としてのキリスト者という文化的立場と出会い直すことにつながりました。

個々がバラバラになつて共同体性を失い孤立しやすいため、だからこそ、「情報」ではなく、その時代を生きてきた「生身の人間」―痛みをもちつつ、時代に翻弄されながら歩まざるを得ない、錯綜した人間―の言葉と出会うということが、求められていくのではないのでしょうか。

世代を超えて「対話の場を創り出す」クリスチャン・アカデミーの働きが、「平和を創り出す」イエスに従う者としての使命として受け継がれていきますようにと祈ります。(日本基督教団経営緑岡教会牧師)

※ドキュメンタリー映画
「豹変と沈黙―日記でたどる沖繩戦への道」
公式HP



公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー 2024 年度事業報告(総括)

1. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター

- ① フォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続し、発展させた。
- ② アカデミー運動の理念に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組んだ。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 当財団の事業展開の拠点として、関西セミナーハウス活動センターの公益目的事業に施設を提供した。
- ② 当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊施設及び会議場を諸宗教団体、労働組合、文化・社会活動団体、教育機関・学会・研究会等に供した。

(3) 広報活動

- ① 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター及び関西セミナーハウスの活動状況について、機関紙「はなしあい」、ウェブサイト等によって継続的に情報を発信した。

- ② 機関紙、ウェブサイト等により、年度事業計画、収支予算、事業報告、決算報告、その他当財団に関する情報を公開した。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的利用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の貸出を行い、その収益の一部を公益活動に資した。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資した。

2. 事業運営推進

公益目的事業の推進に当たっては、継続的事业、新規プログラムを問わず、予算計画を持ち、必要財源を確保しつつ、安定的継続可能な運営を行った。

3. 賛助会員、寄附金

公益法人への寄付により受けられる税制優遇措置を活用し、アカデミー運動を支援する賛助会員および寄附者からの支援を仰いだ。

(以上)

貸借対照表

2025年3月31日現在

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産	30,333,843	41,711,932	△ 11,378,089
2. 固定資産			
(1)基本財産	12,000,000	12,000,000	0
(2)特定資産	11,868,624	11,295,646	572,978
(3)その他固定資産	272,104,373	271,176,776	927,597
固定資産合計	295,972,997	294,472,422	1,500,575
資産合計	326,306,840	336,184,354	△ 9,877,514
II 負債の部			
1. 流動負債	6,454,362	8,278,889	△ 1,824,527
2. 固定負債	8,565,264	8,179,494	385,770
負債合計	15,019,626	16,458,383	△ 1,438,757
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	1,460,199	△ 1,460,199
2. 一般正味財産	311,287,214	318,265,772	△ 6,978,558
正味財産合計	311,287,214	319,725,971	△ 8,438,757
負債及び正味財産合計	326,306,840	336,184,354	△ 9,877,514

関東活動センター

●2024年度
「第14回 神学生交流プログラム」

校長・関西学院大学名誉教授 神田 健次さん
講師・西南学院大学神学部長 才藤千津子さん

2025年3月11日(火)～13日(木)

会場 西南学院大学及び同大学神学寮・オンライン(ZOOM)

今回は、福岡市で百余年の歴史を重ねる西南学院大学及び同大学神学寮を会場に、オンラインを併用して開催された。大学の寮をお借りしての開催は初めてであり、西南学院大学神学部と才藤千津子先生の多大なるご協力により実現することができた。ここで改めて感謝を申し上げます。このように普段から神学生たちが生活している場所に教派を超えた神学生が集まり、共に過ごすことにより、より深い交流とはなしあいの時が持たることが、今回の大きな成果

であった。また、校舎や神学寮もカメラやプロジェクト、Wi-Fiなどの設備が充実しており、大学では事務の方々のご協力もいただき、今回も対面とオンラインのハイブリッド開催が実現した。

校長は、神田健次先生が務め、講師には、才藤千津子(西南学院大学神学部長)をお迎えした。

今回は、計9名の参加者が与えられた(内、1名はオンライン)。参加者は、西南学院大学神学部(3名)、日本聖書神学校(1名)、同志社大学神



学部(2名)、関西学院大学神学部(2名)より推薦を受けて参加された。今回の参加者は、年齢的にも社会的な経験においても幅の広い方々が集まったことにより、さまざまな

1日目は、神田校長による開会礼拝に始まり、オリエンテーションでは、参加者同士が話し合っ各プログラムの司会などが決められた。この交流プログラムでは、参加者が協力して共に作り上げていくことを大切にしている。その後、参加者のリードによる自己紹介や神学校の紹介がなされ、豊かな交わりの時が与えられた。「講演1」は、才藤千津子先生が人生を通して、どのような人と出会い、どの

ような経験をされたのかをお話しいただき、才藤先生の生き様に触れることができた。

2日目の「講演2」は、才藤先生の専門から講演がなされた。ハラスメントや嫌がらせ、いじめは、教会とは無縁のものではない。そこには、牧師堂(国指定重要文化財)を見学(司祭)と信徒といった関係性の中で力関係や利害関係が成り立ち、容易にハラスメントを生み出す教会文化があることが話された。これは牧師から信徒といった一方的なものだけでなく、信徒同士や信徒から牧師に対するものも含まれる。イエスが示されたリーダーシップとは、この世の権力や支配(コントロール)によってなされるものではなく、互いに許し合い、支え合い、互いに責任を負っていく中で見いだされるものであると語られた。3日目のフィールドワークは対面のみであるため、2日目の夕刻に神田校長による「閉会礼拝」が行われた。また、夜には、西南生御用達の「式番館じゃがいも」に交わりの時をもつことができた。

3日目は、フィールドワークが行われた。神田健次校長の案内、吉岡恵生スタッフによるマイクロバスの運転によって、カトリック今村教会、太刀洗平和祈念館、福岡城址を見学した。今村教会では、現在工事中のため一般に公開されていない鉄川与助による礼拝堂(国指定重要文化財)を見学させていただき、ローマ・カトリック教会の礼拝堂や典例について解説していただき、浦川務神父様より、献身に至るまでの経緯や証しを伺うことができ、神学生たちも大いに励まされた。昼食も、今村教会にお弁当の手配だけでなく、信徒の方による手作りのお惣菜までいただき感謝であった。太刀洗平和祈念館、福岡城址で、福岡の歴史的な背景や平和について学びを深めることができた。

今回は初めての試みが多々あり、多くの方々に協力いただき、多くのプログラムを進めることができた。この交わりを大切にする共に、会場を提供してくださった西南学院大学神学部の上に神の豊かな恵みがあるよう祈っている。詳細は、完成する報告書をもって確認していただきたい。

関西セミナーハウス活動センター

●2024年度修学院フォーラム「いのち」第4回

「歴史を変えた非暴力主義
―再洗礼派からキング牧師まで―

講師 武蔵大学リベラルアーツアンドサイエンス教育センター教授 踊 共二さん

2025年1月25日(土)

会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン



キリスト者として歴史研究に携わってこられた踊共二氏を迎え、再洗礼派の非暴力主義を学んだ。講演では、宗教改革運動の中から生まれた再洗礼派が、山上の説教に基づいて非暴力を主張し、防衛のための戦いをも否定して、迫害の中で赦しと敵への愛を貫いた歴史が語られた。徴兵が行われるようになると再洗礼派の人々は兵役を拒否し（いわゆる良心的兵役拒否）、彼らのこのような態度が20世紀には代替役務の制度を成立させることになる。今日、暴力と戦争がやむことのない世界の中で、再洗礼派の人々は「修復的正義」を提唱して各国の司法関係者や警察、教育機関に影



響を与え、また平和創出のため諸活動を展開している。キリスト教はその歴史の中で、敵を愛し、迫害する者のために祈ることの非現実性をしばしば唱え、あるいはその実現の可能性を終末論的に説明してきたが、本講演はこれらの言説が言い訳に過ぎないことを思わせるものであった。平和の創出に関わろうとする能動的な思いと希望が与えられる講演であり、動画配信でも多くの方が視聴されることを願っている。

●2024年度 修学院フォーラム「福祉」第2回

講師 京都大学 人と社会の未来研究院教授 広井 良典さん

2025年2月15日(土)

会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン

「持続可能な福祉社会―人口減少社会のデザイン」

広井講師は、日本の将来を大きく左右する要因に関する研究結果と提言を示すために次のサブテーマを元に、多くの資料を示しながら話を進めた。今回は、セクション毎にコメントとディスカッションの時間を設けるというスタイルが取られた。

1. 「豊かさ」の意味と幸福（ウェルビーイング）
2. 「持続可能な福祉社会」
3. 人口減少社会を考える視点
4. 人類史の中の人口減少・成熟社会
5. AIを活用した、持続可能な日本の未来に向けた政策提言
6. 分散型社会Ⅱ 持続可能な福祉社会のビジョン

か―「持続可能な福祉社会」おわりに…グローバル定常型社会の展望
2について、広井講師は、日本は若い世代への投資が相対的に少なすぎるとし、そのことが人口減少につながっていると述べた。政策の転換が出生率の上昇をもたらすかもしれない。

5については「歩きやすい都市、ローカリゼーションや自然特に鎮守の森と人間の関係やSDGsに欠けているものとしての文化など」に着目し、これらについて、日本は米国よりヨーロッパを参考にすべきと論じた。



最後に、日本の未来への手がかりとして次の四点を挙げた。

- * 人口減少・高齢社会の文字通りフロントランナーである。
- * 多くの課題を抱える一方、
- * 環境・福祉・経済が調和した「持続可能な福祉社会」のモデルを先導的に実現、発信していくポジションにあるのではないか。

●2024年度 修学院フォーラム「いのち」第5回
「スピリチュアルケアを考える
―病院チャプレンの立場から―

講師 元 淀川キリスト教病院チャプレン 藤井 理恵さん

2025年2月22日(土)

会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン

講演ではまず、人との関わりにおいては、人を全人的に捉える必要があること、そして人が身体的、社会的、精神的、スピリチュアルな存在であることが確認された。スピリチュアルについては様々な考え方があがるが、聖書による相対的に費用対効果の高い形で長寿を実現している。鎮守の森に象徴されるような伝統文化が保存されている。
* 元来、分散的で地域の多様性が豊かな社会であった。
* ローカーから出発しつつ、

と人間は、神（超越者）によってつくられ、その命の息（スピリット）に生かされているスピリチュアルな存在（being）として捉えられている。従ってスピリチュアルペインとは人間存在の根底を揺さぶる問いであり、とりわけ死を前にした人の痛みには苦しみや命の意味、価値への問い、孤独、限界、罪責感、死の不安が伴うことが説明された。
次にスピリチュアルケアについては、beingである人に関



日々の会話や支援の場で自分の気持ちや考えを表現し分かち合う習慣を作る方法について、「修復的対話」をテーマに学び、考えた。

68名の参加があった。また、今回初めて参加された方も多かった。多くの参加者のため、会場を2つに分けてZoomで結ぶという方法が取られた。

修復的対話の実践を学ぶワークを通して、「所属意識」「信頼性」「自主性」という基盤の大切さを学ぶ中で、参加者自身が支援者として、大人として相手とどのように接しているかを改めて考えるきっかけ

●2024年度修学院フォーラム「福祉」第3回
(共催 京都YWCA)
「対話と尊重の文化を作る〜修復的対話実践〜」
講師 同志社大学心理学部准教授 毛利 真弓さん
2025年3月15日(土)
会場 京都YWCAとZoomによるオンライン

わかるケア(水平/ヨコ軸の関係)と人を超える存在の視点からのケア(垂直/タテ軸の関係)があること、そしてbeingとしてのケアには限界があり、超越者との関りを通して自己を相対化し、限界を認めて委ねる生き方が可能となることが解説された。
その後の話し合いでは参加者から質問やコメントが寄せられ、それぞれの痛みの経験や現場で感じる葛藤や困難を分かち合うことができた。フォーラム終了後も講師を囲んでの懇談は続き、貴重な気づきと生きる力が与えられたひと時であった。成果主義に価値を置く世の中にあつて、我々は存在そのものに価値を見出しその尊さを共有していく必要がある。そのためには我々自身が葛藤しながらも己の痛みや弱さを受け入れ、死に向かって謙虚に生きることが求められている。



今回は、原子力発電を考慮するフォーラムの12回目である。14年前の3月には地震を契機に福島原発が暴走し、東日本の人々の生命を危

●2024年度修学院フォーラム「エネルギーを考える」第12回
「避けられない原子力災害と、捨てられない使用済み核燃料…必要を満たして余りある太陽の光と風の力」
講師 環境NGOグリーン・アクション代表 アイリーン 美穂子 スミスさん
講師 足利大学 顧問、名誉教授 牛山 泉さん
2025年3月30日(日)〜31日(月)
会場 関西セミナーハウス

となったのではないかと。支援の場面以外の普段の人間関係や生活の中でも活かせると思われれることもあった。
自分のエピソードを整理し、ワークを行う部分については自身の話をするというこゝとに抵抗を感じる声も少し聞こえてきた。自分自身のこと話を話すのは案外難しいと感じる方もいたのではないかと。また



機に追いやった。今もなお一部の住民は、避難を強いられる。周辺地域は今も放射能で汚染されたままであり、事故を起こした原子炉

は、放射能を放出し続けている。その後も日本列島では大きな地震に襲われ、その度に原発が危険に晒された。発電に用いられた使用済み核燃料は、全国各地でたまる一方であり、安全に処理できる方法は見出されていない。それにも関わらず、政府は、休止中の原発を再稼働させ、さらに新しい原発まで建設する方針を打ち出した。これは、市民の生命の安全を犠牲にした、経済

繁栄策である。
アイリーンさんは、かつて写真家のユージン・スミスさんと共に、水俣病患者の苦しみに寄り添った人である。その後アメリカのスリーマイル原発事故の被災者と出会い、原発の過酷さに気づかされ、さらに福井県若狭の原発群の下で苦しむ人や福島原発事故の被災者と出会い、何としてもこの人道に反する発電設備を止めねばならぬと、訴えてこられ、今回も共に歩むようにと呼びかけられた。

一方、牛山 泉さんは、早くに風力発電の有効性に気がつき、日本風力エネルギー学会を設立された人である。彼は、中東から大型タンカーを連れ



大宮講師は、「キリスト教シオニズム」の根源は三つであると論じた。第一はアメリカにおける「入植者」とパレスチナにおけるシオニストのユダヤ人が、自分たちが神様に与えられた土地に選ばれたと信じ、そこに住んでいる他の人々を無視するという、類人的人種差別的なフロンティアのアプローチである。第二は

パレスチナにおけるユダヤ人入植者のあらゆる行動を正当化する、ヨーロッパとアメリカのホロコーストに対する後悔である。第三は一九世紀のユダヤ人を聖地に帰還させれば、やがてキリストが再臨するという考えによるものとした。これを是とするキリスト者は、パレスチナでのイスラエルの樹立と勝利により、再臨が近づくと考えた。



大宮講師は、「キリスト教シオニストは主に右派の白人アメリカ人で、アメリカ合衆国の支配層に大きな影響力を持っている」と指摘した。しかし、より広範なキリスト教徒の層が、リベラル派のグループでも当たり前のような聖書解釈を通じてシオニストの思想を共有していることを注意した。例えば、日本聖書協会の最新聖書翻訳の地図3は、エジプト後イスラエルの12部族に分配されているパレスチナを描く。この地図が当時の歴史的現実を反映していないことを示すヒントは一切ない。

講師は、現代のキリスト教シオニストは主に右派の白人アメリカ人で、アメリカ合衆国の支配層に大きな影響力を持っていると指摘した。しかし、より広範なキリスト教徒の層が、リベラル派のグループでも当たり前のような聖書解釈を通じてシオニストの思想を共有していることを注意した。例えば、日本聖書協会の最新聖書翻訳の地図3は、エジプト後イスラエルの12部族に分配されているパレスチナを描く。この地図が当時の歴史的現実を反映していないことを示すヒントは一切ない。

●2025年度 修学院フォーラム「いのち」第1回
「なぜアメリカのキリスト教はイスラエルを支持するのか？」
講師 関西学院大学法学部教授・宗教主事 大宮 有博さん
2025年4月19日(土)
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン

●2025年度 修学院フォーラム「社会」第1回
「韓国における戒厳令の歴史と日本帝国、そしてキリスト教」
講師 名古屋学院大学非常勤講師 洪 伊杓(ホン イビョ)さん
2025年5月24日(土)
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン

「私たちは何ができるのか？」が、大宮講師の最後に投げかけた質問だった。意識は行動で表すべきだ。例えば、賛美歌、日曜学校教材、聖書の教えを改訂することができる。教会や教会関連団体は、パレスチナ領土に対するイスラエルの覇権から利益を得ている企業からの投資を撤回し、その撤回を提唱することができ。最後に、大宮講師は、北ガザにあるアハリー・アラブ病院への支援を提唱した。

2024年12月3日に韓国で45年ぶりに尹錫悦前大統領によって非常戒厳令が出ると同時に、市民の強い抵抗と軍警察の消極的な任務遂行などで、同日解除された。今回の戒厳令の歴史を辿りながら、その背景にある「日本帝国」との関連性、「戒厳とクーデター」、「市民虐殺」などの暗い歴史に、韓国のキリスト教が深く関わっていることを学んだ。

洪講師は最初に、1923年に発生した関東大震災時の朝鮮人・中国人虐殺事件をとりあげ、戒厳令が本来は内乱または戦争の時に発令されるものであることを紹介。この虐殺が戒厳令下で行なわれた事件であることの意味は何か。戒厳体制下の官憲が虐殺を主導し、民衆の行為にも加担したのではないかという疑問が残ることを指摘し、流言飛語と戒厳令、そして虐殺事件が不可分の関係にあることを解説。続いて、韓国現代史における戒厳と虐殺の歴史について、韓国の「戒厳」概念のルーツに日本帝国の戒厳法の準用があったこと、近代天皇制における「絶対権威」を表象する「元首」、「超法規制」を表した「統帥」概念が影響したことなどを、4・19学生革命(1960)、5・16クーデター(1961)の戒厳令を事例として詳説。また、戒厳を支えてきた韓国の保守的なキリスト教についても、歴代の大統領や軍指導者が軍事独裁をキリスト教の聖書箇所引用などで正当化



してきたことが説明された。最後に、ノーベル文学賞を受賞したハン・ガンの作品である『少年が来る』(2014)と『別れを告げない』(2021)が、光州5・18民主化抗争(1980)と済州4・3事件(1948)における戒厳令下の虐殺の悲劇を素材としていることに言及。また、ハン・ガンが「過去が現在を助けることはできるか? 死者が生者を救うことはできるのか?」と問いかけていることを紹介。講演後、活発な「はなしあい」が1時間以上にわたって行われた。



「ウクライナ正教会」の独立の動きへと至り、2019年に独立正教会として承認を受けたこと、これに対してロシア正教会は対抗措置を取ったが、そこには「ロシア世界(ルースキー・ミール)」という神

学的・民族的統合のイデオロギーマも絡んでいることーこのような正教会内部の対立の歴史が、ウクライナ侵攻の一つの背景をなしていることが説き明かされた。

なかなか聞くことのできな参加者が集い、宗教と政治が複雑に絡み合った歴史を学んで、講演後は活発な質疑応答が行われた。キリスト教が対立や戦争を引き起こす要因となることを知り、愛と平和を実現することの難しさ、そのための努力の必要を痛感させられる講演であった。この複雑な世界にあって、問題をしっかりと見極め、戦争でなく平和をつくり出す存在になろうとする思いと祈りが、次の時代を担う若者たちにも共有されたように感じられた。



●2025年度修学院フォーラム「いのち」第2回
「ロシア正教とウクライナ正教会の関係」
ーロシアのウクライナ侵攻の宗教的背景ー
講師 龍谷大学国際学部教授 久松 英二さん
2025年6月14日(土)
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン



賛助会費・寄付金報告(1)

2025年4月1日~6月30日(順不同・敬称略)

- ◆財団本部
 - 中村 信博
 - 中村 淑子
 - 原田 裕子
 - 中井 博雅
 - 増田 博
- ◆関東活動センター
 - 神学生プログラム寄付
 - 中村 信博
 - 原 誠
 - 神保 信子
 - 中井 博雅
 - ◆関西セミナーハウス
 - 寄付
 - 君村 昌・千代子
 - 株式会社 Goku-Labo
 - 土野 正義
 - 中井 博雅
 - 植松 文果
 - カブトムシまつり2025募金
 - ◆関西セミナーハウス活動センター
 - 賛助会費
 - 岡安 茂祐
 - 樋口 よう子
 - 斉藤 洋子
 - ◆財団本部
 - 柳井 一朗
 - 中井 博雅
 - ◆賛助会費
 - 松浦 茂長
 - 押切 稔
 - 友野 富美子
 - 平井 祐美子
 - 中村 信博
 - 村松 庸子
 - 北原 和夫
 - 河原田 美哉子
 - 竹中 百合子
 - 洞口 優子
 - 神保 信子
 - 竜野 かおる
 - 松井 直樹
 - ◆寄付
 - 高柳 允子
 - 松浦 茂長
 - 大橋 祐治

次頁に続く

関西セミナーハウス活動センター YouTubeライブラリー

修学院フォーラムなど、各講演の記録動画を、YouTubeライブラリー※として視聴することができます。(一部を除く)

クレジット決済
専用サイト →



※限定公開方式のため「検索」では出てきません。お申込みとご入金により URL をご案内します。1件 500 円ご負担ください。申込は、HP、メール、上記 QR コードより。

プログラム案内

◆関東活動センター

■2025年度 聖書を読む講座I

(共催:早稲田奉仕園)
「LGBTQ+と聖書」みんなで考えてみよう!
講師:藤本 満さん(インマヌエル高津キリスト教会 牧師)

日時:4月~2026年3月、第2火曜(8月、12月休会)19:30~21:00

参加費:全10回10,000円、学生5,000円
方法:Zoomによるオンライン講座

■2025年度 宗教対話I

読書会「キリスト教と文学」
講師:柴崎 聰さん(詩人、日本聖書神学校講師)

日時:4月~2026年3月、第3火曜

東 西 南 北

【役員改選】

任期満了に伴い、2025年度当財団定時評議員会(6月17日)で、次の通り役員(理事7名、監事2名)が選任され、それぞれ就任した(任期2年)。

代表理事 中村 信博

理事 浦上 充 神崎 清一

神田 健次 柴田 賢司

村上 みか 山本 知恵

監事 黒岩 裕二 柳井 一朗

同評議員会で、次の通り評議員(7名)が選任され、それぞれ就任した(任期4年)。

評議員長 山本 俊正

評議員 井上 依子 古賀 博

小原 克博 新野(藤浪)敦子

増田 琴 和田 喜彦

財団本部 HP



関西セミナーハウス HP



関東活動センター HP



KSH 活動センター HP



公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 1F
TEL 03-3207-6198
E-mail :info@academy-tokyo.com
郵便振替 00190-7-109437

関西セミナーハウス

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2115
FAX 075-701-5256
E-mail :info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2117
FAX 075-701-5256
E-mail :office@academy-kansai.org
郵便振替 01020-1-5184

(8、12月休会)14:00~15:30

参加費:1,000円/回

会場:関東活動センター会議室
(キリスト教会館1階16号)

■2025年度 宗教対話II

「柏木義円公開講演会」
(共催:柏木義円研究会)

講師:未定

日時:11月29日(土)

方法:Zoomによるオンライン開催

■2025年度 宗教対話III

福嶋揚と共にハンス・キュンクを読む

講師:福嶋 揚さん(神学者)

日時:5月~2026年2月、第4金曜

(8月、12月休会)16:30~18:00

参加費:全8回10,000円、学生8,000円

方法:Zoomによるオンライン講座

■2025年度 話し方ワークショップ

「さらに豊かな礼拝のために
ことばを届けるトレーニング」

講師:友野富美子さん(日本キリスト教団深川教会牧師)

日時:5月~2026年3月、第3金曜

(8月休会)19:00~20:30

参加費:各回1,500円/回

会場:日本キリスト教団東中野教会

◆関西セミナーハウス活動センター

◎会場いづれも 関西セミナーハウス

■2025年度 開発教育セミナー[対面開催]

第2回「パレスチナから「平和」を考える
~私たちは欧米中心の認識を乗り越え

られるか~」

講師:金城 美幸さん(名古屋学院大学講師)

日時:9月13日(土)16:00~14日(日)12:00
第3回「国連を超えて~国際平和を探究する平和教育の実践から~」

講師:野島 大輔さん(立命館大学国際地域研究所客員協力研究員)

日時:10月4日(土)16:00~5日(日)12:00
第4回「コモンズとしての食

~食と農を私たちの手に取り戻すには~」

講師:山本 奈美さん(明治国際医療大学基礎教養講座助教/農学部設置準備室)

日時:11月1日(土)16:00~2日(日)12:00

参加費:13,500円(1泊2食、宿泊税込)

■2025年度 エネルギーを考える13

「なぜ生命を脅かす原発に今なお頼り続けるのか?」[対面開催]

講師:青木 美希さん(ジャーナリスト、作家) 武藤 類子さん(原発事故被害者団体連絡会共同代表)

日時:9月14日(日)16:00~15日(月祝)15:10

参加費:16,000円 学生5,000円

(1泊3食、宿泊税込)

■2025年度 修学院フォーラム「いのち」

第3回「歴史からみる旧約聖書の思想-唯一神信仰、契約思想、戦争と平和-」[対面開催]

講師:月本 昭男さん(立教大学・上智大学名誉教授)

日時:11月2日(日)16:00~3日(月祝)15:10

参加費:16,000円 学生8,000円

(1泊3食、宿泊税込)

賛助会費・寄付金報告(2)

2025年4月1日~6月30日(順不同・敬称略)

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費(前頁続き)

高寺 幸子

林 律

梅山 猛

森口 克洋

今川 泰彦・喜子

五十嵐 萬里子

松岡 蓉子

伏木 信次

陶村 世佳子

竹中 百合子

藤田 恭子

中村 信博

医療法人わたなべクリニック

高塚 郁男

木下 壽子

山本 貴之

山本 俊正

鳥井 潔・操

大島 偕美

吉田 力

橘 俣子

堤 龍春

真鍋 裕子

佐藤 友紀

田辺 信子

多木 秀雄

織田 雪江

山添 みどり

新宗連大阪事務所 公文孝枝

八杉 恵

西川 淑子

村上 みか

近藤 恵

水戸 潔

巽 義治

浦 晴子

小澤 妙子

匿名

木村 護郎クリストフ

小笠原 純

田中 義信

福田 爲謙

李 善恵

徳丸 延子

クリスチャンM.ヘアマンセン

寄付

横野 朝彦

森口 克洋

川北 かおり

長村 光造

山本 公平

加藤 庸子

竹中 百合子

藤田 恭子

熊谷 文郎

中村 信博

山本 俊正

小久保 正

姫野 真知夫

クリスチャンM.ヘアマンセン

桜井 希

山添 みどり

坪野 えり子

大野 三枝子

村上 みか

水戸 潔

野田 純一

大頭 眞一

藤田 敦子

匿名

池田 千恵

長谷川 義統

福田 爲謙

徳丸 延子

武山 泰子

募金箱

丸山 まり子

織田 雪江

友前 尚子

以上、感謝を持って

ご報告申し上げます。